

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-327325

(43) 公開日 平成9年(1997)12月22日

(51) Int.Cl.⁸

A 4 5 D 24/22

識別記号

庁内整理番号

F I

A 4 5 D 24/22

技術表示箇所

B

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号

特願平8-150512

(22) 出願日

平成8年(1996)6月12日

(71) 出願人 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72) 発明者 山本 芳功

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社
社研究所内

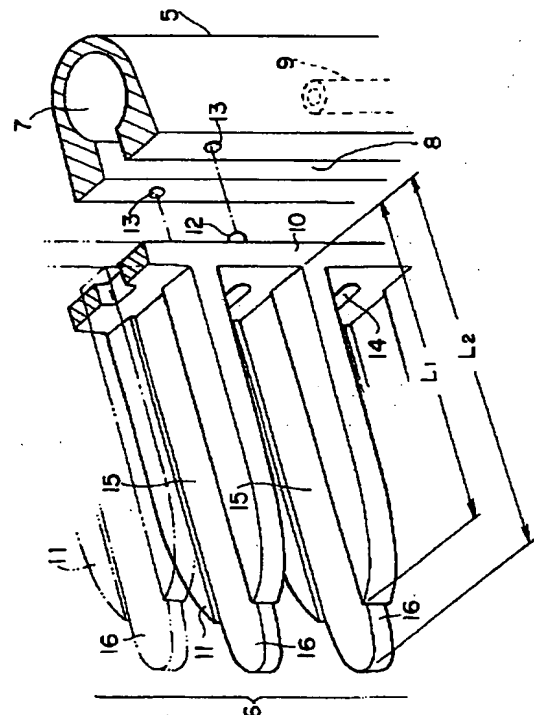
(74) 代理人 弁理士 宇高 克己

(54) 【発明の名称】 剤塗布用具

(57) 【要約】

【課題】 剤を髪の毛の根元まで十分に塗布することができ、しかも構造が簡単であって、その製造に複雑な金型を必要としない剤塗布用具を提供することである。

【解決手段】 内部に剤分配室が形成された基部と、この基部に、その長手方向に沿って立設させたクシ歯と、このクシ歯同士の間形成された、前記剤分配室につながる剤吐出孔とを具備し、前記クシ歯の主面には、前記剤吐出孔から吐出した剤を前記クシ歯の先端側に誘導するための剤誘導溝を形成してなる剤塗布用具。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 内部に剤分配室が形成された基部と、この基部に、その長手方向に沿って立設させたクシ歯と、このクシ歯同士の間形成された、前記剤分配室につながる剤吐出孔とを具備し、前記クシ歯の主面には、前記剤吐出孔から吐出した剤を前記クシ歯の先端側に誘導するための剤誘導溝を形成してなることを特徴とする剤塗布用具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、各種の剤、たとえばカラーリンスやヘアマニキュアなどの染毛剤、あるいはスタイリング剤などを髪へ塗布するために用いられる剤塗布用具に関する。

【0002】

【発明が解決しようとする課題】従来、染毛剤などを髪に塗布する際には、適量の剤を直接、髪につけた後、手あるいは専用ブラシで髪全体にのばす必要があった。しかし、こうした作業は、何度も繰り返し剤の塗布を行う場合、非常に面倒である。そこで、剤が収納された容器と、多数のクシ歯を有するブラシ部とを一体化させた剤塗布用具が考えられた。その一例としては、実公昭56-19923号公報に開示されるものがある。この剤塗布用具では、剤をクシ歯の途中から吐出させて、髪に直接塗布できるようになっている。このため、取り扱いが容易で、手軽に使用できるといった特長を有している。

【0003】ところで、上記剤塗布用具では、図5に示すごとく、剤吐出孔20をクシ歯21の先端側に形成している。これは、髪の根元にも剤を十分に塗布できるようにするためである。しかし、こうした構造の剤塗布用具では、厚みの小さなクシ歯21の内部に微細な剤誘導路22を形成しなければならない。よって、複雑な金型が必要となり、コストが高つく。

【0004】なお、クシ歯の寸法を短くすれば、剤塗布用具を図6に示すような構造としても、剤をクシ歯の先端まで導くことができる。そして、この場合、複雑な金型が必要ではないから、低コストにて生産できる。ところが、剤塗布用具のクシ歯を短くすると、あらたな問題が生じる。すなわち、ブラッシング機能が低下し、髪をとかし難くなる。

【0005】したがって、本発明が解決しようとする課題は、剤を髪の根元まで十分に塗布することができ、しかも構造が簡単であって、その製造に複雑な金型を必要としない剤塗布用具を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記の課題は、内部に剤分配室が形成された基部と、この基部に、その長手方向に沿って立設させたクシ歯と、このクシ歯同士の間形成された、前記剤分配室につながる剤吐出孔とを具備

し、前記クシ歯の主面には、前記剤吐出孔から吐出した剤を前記クシ歯の先端側に誘導するための剤誘導溝を形成してなることを特徴とする剤塗布用具によって解決される。

【0007】特に、剤が収納された容器と、内部に剤分配室が形成された基部、この基部にその長手方向に沿って立設させたクシ歯、このクシ歯同士の間形成された、前記剤分配室につながる剤吐出孔を備えたブラシ部とを具備し、前記クシ歯の主面には、前記剤吐出孔から吐出した剤を前記クシ歯の先端側に誘導するための剤誘導溝を形成してなることを特徴とする剤塗布用具によって解決される。

【0008】すなわち、本発明の剤塗布用具では、クシ歯の主面に剤誘導溝を形成し、剤吐出孔をクシ歯の途中ではなく、基部の側に設けている。よって、クシ歯の内部に微細な剤誘導路を形成する必要がなく、金型を簡略化でき、製造コストは低廉なものとなる。そして、剤が基部の側から吐出しても、この吐出した剤は剤誘導溝によってガイドされ、拡がらずにクシ歯の先端に到達する。つまり、クシ歯の先端部分に剤を確実に供給できる。したがって、髪の根元にも剤を十分に塗布することが可能となる。

【0009】なお、上記剤塗布用具においては、剤誘導溝をクシ歯の両主面に形成してなることが好ましい。これによって、剤塗布用具を逆さにした状態で剤を吐出させても、もう一方の剤誘導溝（剤塗布用具が正常な向きであるとき機能する剤誘導溝と対向する剤誘導溝）で剤を受けることができる。ゆえに、剤塗布用具は逆さになった状態でも使用可能となる。

【0010】ただし、クシ歯の主面とはクシ歯周囲のなかで最大の面積を有する面を指す。特に、クシ歯が平板状の場合、最大面積を有する平坦面をクシ歯の主面とする。また、上記剤塗布用具において、剤誘導溝の深さ寸法は、前記剤誘導溝の幅寸法の $1/10 \sim 1/1$ であることが好ましい。特に望ましくは、 $2/5 \sim 4/5$ である。

【0011】他方、剤誘導溝の長さ寸法は、クシ歯の長さ寸法の $1/2 \sim 1/1$ であることが好ましい。特に望ましくは、 $7/10 \sim 1/1$ である。そして、クシ歯の先端に剤誘導溝部分に対応した凸部を形成すると共に、前記凸部の剤塗布面と前記剤誘導溝の底面とが連続した一つの平滑面を構成するようにしてなることが好ましい。これによって、一層効率よく剤が髪の根元に塗布されるようになる。

【0012】更に、剤の供給をスムーズにするため、剤吐出孔における基部の長手方向と直交する方向の寸法を、剤誘導溝の幅寸法とほぼ等しくしてなることが好ましい。なお、上記剤塗布用具において、剤誘導溝の深さ寸法とは、深さが均一なものではその均一深さを、深さが不均一なものでは最大深さを意味する。同様に、剤誘

導溝の幅寸法とは、幅が均一なものではその均一幅を、幅が不均一なものでは最大幅を指す。また、長さ寸法とは、剤誘導溝・クシ歯とともに最大長さを意味する。

【0013】

【発明の実施の形態】本発明の剤塗布用具は、内部に剤分配室が形成された基部と、この基部に、その長手方向に沿って立設させたクシ歯と、このクシ歯同士の間形成された、前記剤分配室につながる剤吐出孔とを具備し、前記クシ歯の主面には、前記剤吐出孔から吐出した剤を前記クシ歯の先端側に誘導するための剤誘導溝を形成してなるものである。

【0014】図1～図4に本発明に係る剤塗布用具の一実施形態を示す。図1は剤塗布用具の全体図、図2は分解状態での要部（ブラシ部）の斜視図、図3はクシ歯の断面図、図4は剤を吐出させた状態を示すブラシ部の斜視図である。各図中、1は剤を収納する容器であり、本実施形態の剤塗布用具では柄の役割を果たす。なお、ここではエアゾール式容器を用いたが、これに代えてスクイズ式容器、すなわち手で圧潰して剤を吐出させるタイプの容器を用いてもよい。

【0015】2はブラシ部、3は容器1とブラシ部2とを連結するジョイント部である。ジョイント部3には、容器1の弁（図示せず）と連動する押しボタン4を設けている。そして、この押しボタン4を操作することで、容器1の弁が開き、剤がブラシ部2に供給される。ブラシ部2は、基部5およびクシ歯連結体6から構成されている。

【0016】基部5は略U字形の断面を有しており、その内部には、図2中、上下方向に延びる剤分配室7が形成されている。また、基部5の腹（クシ歯連結体6が取り付けられる側の面）には、剤分配室7に対応した長さの開口8が設けられている。剤分配室7の内部には、チューブ9が配されている。このチューブ9は、基端側が容器1の剤吐出出口につながっており、先端は剤分配室7の中央付近に存在している。

【0017】基部5と共にブラシ部2を構成するクシ歯連結体6は、一体成形によって得られたもので、均一幅で平板状のベース体10に対し、その長手方向に沿ってクシ歯11を立設させた構造となっている。基部5とクシ歯連結体6との接合は、後者側に設けたピン12を、前者側の凹部13に嵌め込むことによってなされる。ただし、こうした方法によらず、他の嵌合方法を採用してもよく、あるいは接着剤を用いたり、熱融着によって両者を接合してもよい。

【0018】ベース体10におけるクシ歯11同士の間には、剤吐出孔14が設けられている。この剤吐出孔14は、クシ歯連結体6を基部5に接合した状態では、開口8に面し、したがって剤分配室7に充満した剤は、剤吐出孔14からクシ歯11の上に吐出するようになる。クシ歯11における主面の中央には、剤誘導溝15が形

成されている。この剤誘導溝15は、図3から判るように、クシ歯11の両主面に存在している。ただし、上下両端に位置するクシ歯11については例外であり、これらには片方の主面にのみ剤誘導溝15が形成されている。

【0019】クシ歯11は基端側が均一幅で、途中から幅が急縮する舌状のものであって、先端に凸部16を有する。この凸部16を設けたのは、髪の毛の根元に効率よく剤を塗布できるようにするためである。凸部16の主面は、剤誘導溝15の底面と共に連続した一つの平滑面を構成しており、剤吐出孔14から吐出した剤が、スムーズに凸部16まで誘導されるようになっている。

【0020】本実施形態では、剤誘導溝15の深さ寸法Dを、同じく剤誘導溝15の幅寸法B₁の2/5としており、また剤誘導溝15の長さ寸法L₁を、クシ歯11の長さ寸法L₂の9/10とした。更に、剤吐出孔14の横幅B₂と剤誘導溝15の幅寸法B₁とを等しくした。上記構成の剤塗布用具では、次のようにして剤がブラシ部2に供給され、髪への塗布が可能となる。

【0021】まず、押しボタン4を操作すると容器1の弁が開き、そこから吐出した剤はチューブ9に導かれ、剤分配室7に送り込まれる。そして、剤分配室7に充満した剤は剤吐出孔14を経て、クシ歯11の剤誘導溝15内に吐出する。ところで、クシ歯11が単なる平板であったならば、その上に載った剤はクシ歯11の幅方向にも拡がってしまい、先端側にはなかなか到達できない。これでは、髪の毛の根元に剤を効率よく塗布するのは難しい。

【0022】しかし、本実施形態の剤塗布用具では、剤誘導溝15の存在により、図4に示すごとく、吐出した剤は幅方向に拡がらず、クシ歯11の先端側に流動する。したがって、所要の量をクシ歯11の先端部分に供給でき、剤を髪の毛の根元にも十分に塗布することが可能となる。そして、上記剤塗布用具では、剤吐出孔14をクシ歯11の途中ではなく、ベース体10に形成しているので、従来の剤塗布用具のようにクシ歯の内部に微細な剤誘導路を形成する必要がない。よって、金型は簡単なものでよく、安価にて提供できる。

【0023】

【発明の効果】剤を髪の毛の根元まで十分に塗布することができ、しかも構造が簡単であって、複雑な金型を必要とせず、製造コストが低廉である。

【図面の簡単な説明】

【図1】剤塗布用具の全体図

【図2】分解状態での要部（ブラシ部）の斜視図

【図3】クシ歯の断面図

【図4】剤を吐出させた状態を示すブラシ部の斜視図

【図5】従来の剤塗布用具の要部断面図

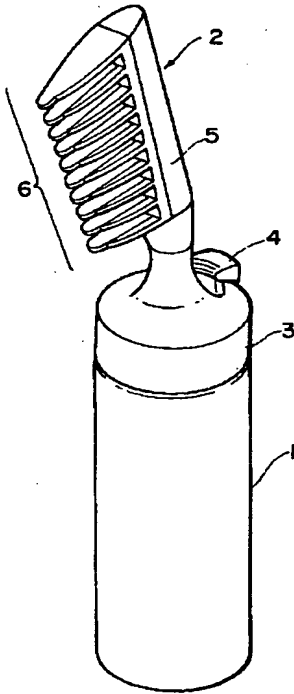
【図6】クシ歯を短くした剤塗布用具の要部斜視図

【符号の説明】

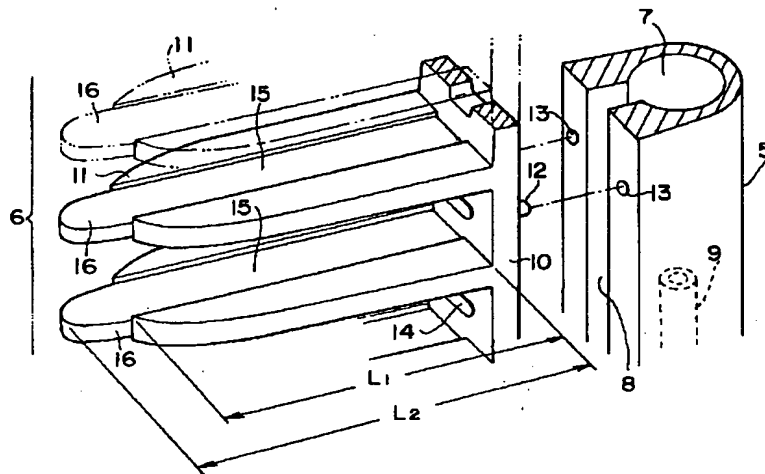
- 1 容器
- 2 ブラシ部
- 3 ジョイント部
- 5 基部
- 6 クシ歯連結体
- 7 剤分配室

- 10 ベース体
- 11 クシ歯
- 14 剤吐出孔
- 15 剤誘導溝
- 16 凸部

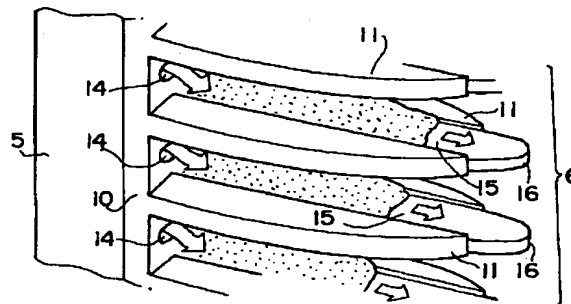
【図1】



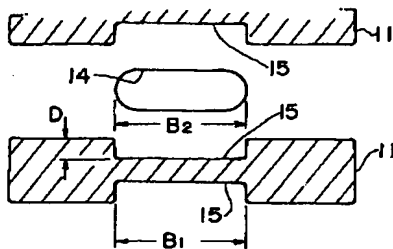
【図2】



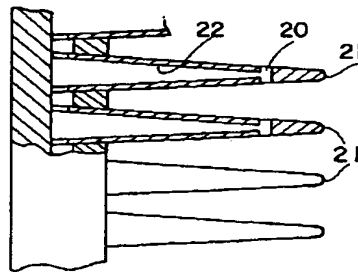
【図4】



【図3】



【図5】



【図6】

